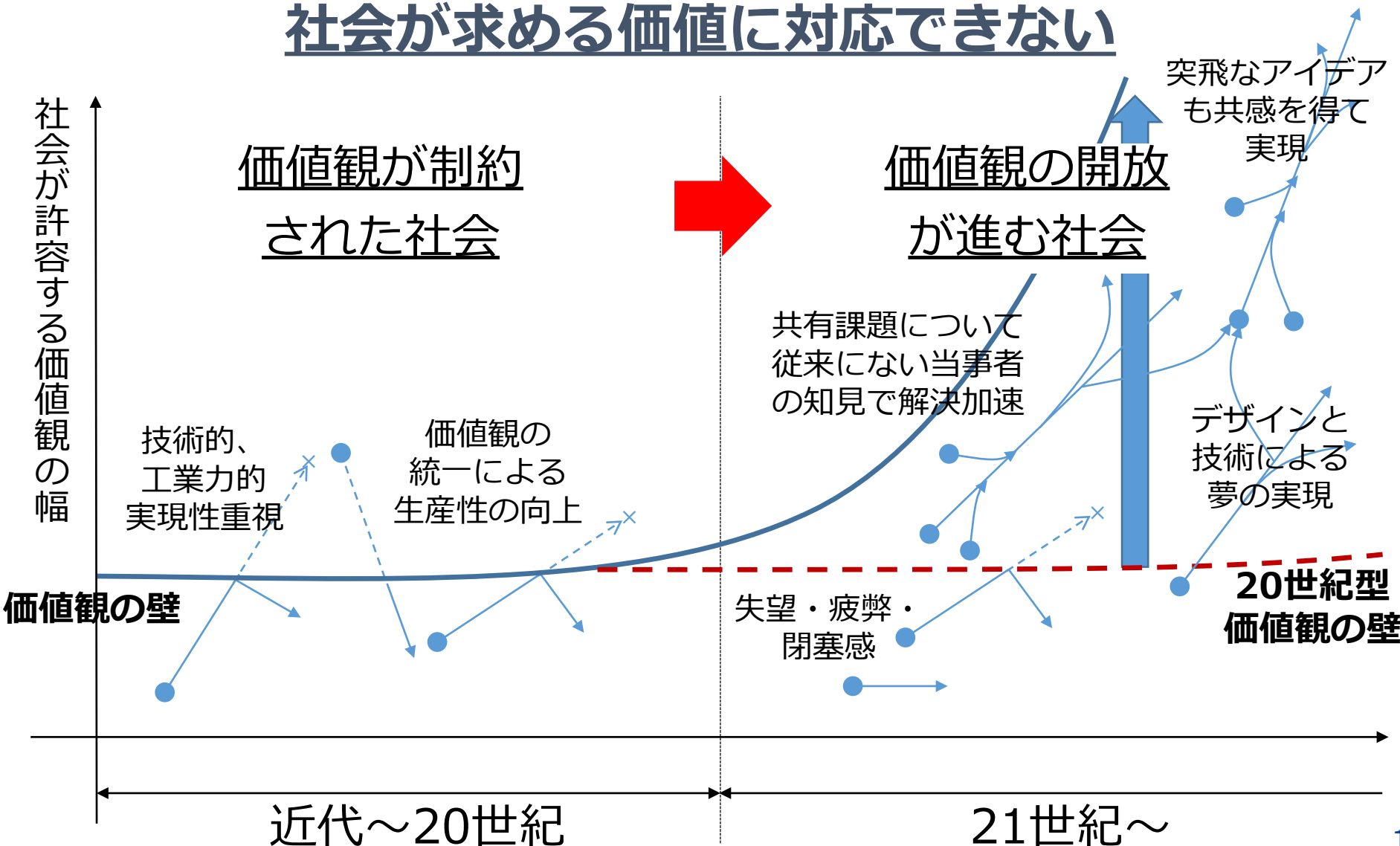


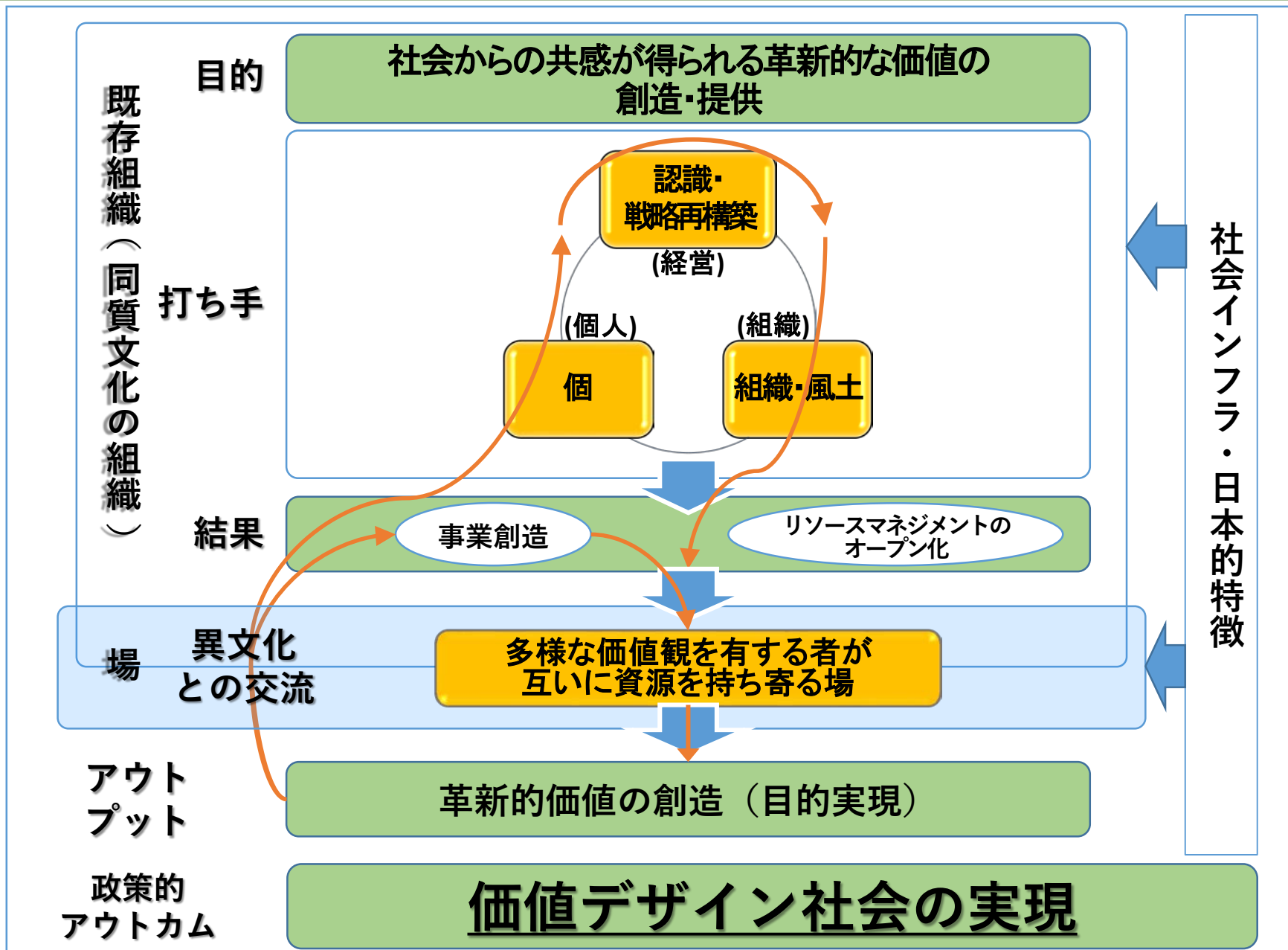


オープンイノベーションに関する 取組状況について

2019年3月15日
内閣府 知的財産戦略推進事務局

20世紀で成功していた価値観のままでは 社会が求める価値に対応できない





H30.11 知財本部検証・評価企画委員会に「価値デザイン社会実現に資するオープンイノベーションの実施に関するタスクフォース」(座長: 渡部俊也東大教授。略称「価値共創TF」)を設置

- I. オープンイノベーションを取り巻く現状認識
- II. 価値デザイン社会において求められるオープンイノベーション像
- III. 実質的なオープンイノベーションにおける課題
- IV. 実質的なオープンイノベーションを実践するために望ましいマインドセット・組織風土
- V. 実質的なオープンイノベーション実践に向けた企業等の自己変革を促す手段
 1. 実質的なオープンイノベーションへの取り組みの診断
 - (1.) 実質的なオープンイノベーションの診断
 - (2.) 実質的なオープンイノベーションを実践する個人の適性・役割の診断
 2. 実質的なオープンイノベーションを促進する人事制度・人事機能のあり方
 3. 実質的なオープンイノベーションを促進する知財制度・知財機能のあり方
- VI. 実質的なオープンイノベーション促進のためのプロモーション

価値デザイン社会に資する実質的OI

多様な価値観を有する組織又は人同士が、共有された明確なビジョンの下、互いに資源を持ち寄った場で、ワクワクしながら、日本らしさを活かしつつ、社会からの共感が得られる革新的な価値の創造・提供を通じて行う、社会変革を伴う活動

● 実質的なOIが行われているのかの診断

➤ 第3回までに出了ご意見から、診断項目を事務局で列挙する。

- 環境変化を認識し経営戦略を再構築する経営者
- 他者の価値観への共感力を持つ自律した個
- 個の自律を促進・保障される組織・風土
- 多様な価値観を有する者が互いに資源を持ち寄る場

また、診断項目の検討には次の点も考慮する。

- 日本の特徴の活用
- 既存組織外にいる尖った若者への援助、尖った若者の活用

※実質的なOIが行われているのかの基本的な考え方(案)

- 設定した時間内において、社会変革を伴う又は伴うことに貢献することが見込まれる新たな価値を創出できている、又は創出に向けて進んでいること。
但し、価値については、目標として設定した対象者や内容を目安としつつ、想定外の対象者に対するものや、想定外の内容で上記の新しい価値が創出できた場合にも、これを評価する。

1. 実質的なOIを実践する個人の適性・役割の診断に使える個人の行動や性格

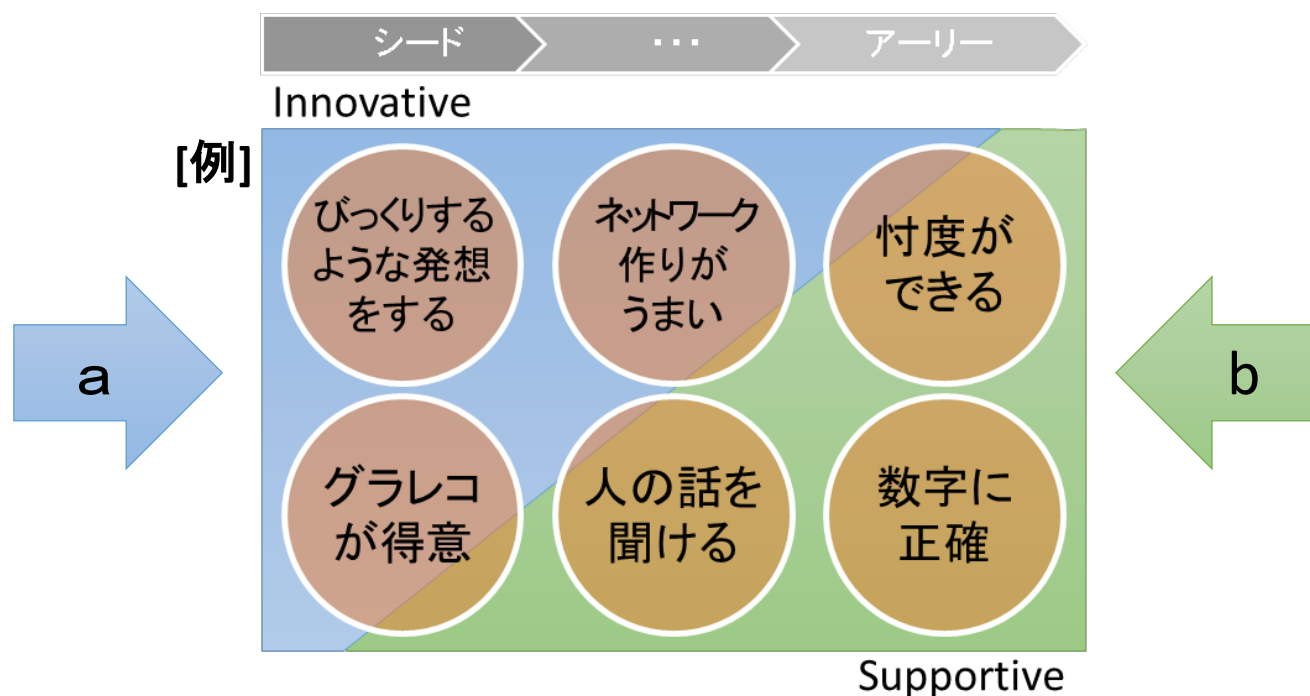
➤イノベーションのフェーズ毎に、求められる適性がうかがえる行動・性格を列挙

a. 主にシードステージ(0→1)における行動・性格

b. 主にアーリーステージ(1→10)における行動・性格

※ 例えば、個人の行動や性格とは、人の話をしっかり聞ける、グラフィックレコーディングが得意、ネットワーク作りが上手い、人が驚く発想をする等

※ 例えば、「“傾聴力が高い”・・・等を備える人は、イノベータが伝えたいメッセージを既存組織に齟齬なく伝えるための“翻訳”の役割に向いている。」等



2. 既存組織が実質的なOIを促進する人事制度・人事機能のあり方

➤ OIの場が活性化するために望ましい人事制度・人事機能(例えば、採用、育成、評価、キャリアパス、兼業・副業・複業、登用等)について列挙

a. OIの場にいる人が幸せに働けるためのOIの場の人事制度・人事機能

b. OIの場にいる人(いた人)が幸せに働けるための本業組織の人事制度・人事機能

3. 実質的なOIを促進する知財制度・知財機能のあり方

➤ 知財の相互利用促進のための仕組み・ルール、部門横断的な性格の活用、部門ミッション、マインドセット等望ましい知財制度・知財機能について列挙

知財部門等の規則・不文律がプロセスを阻害

仮説を検証するために「試作品(プロトタイプ)」をつくるとしよう。しかし、社内での手続が多くなかなか進まない。あるいは、**知財部門の許可がおりず**、試作品を作れない。

これは、社内の決まりごとの多くが、既存事業を円滑に進めるために作られたものだからである。財務や人事、法務、**知財**、広報**など様々な領域にわたる規則や不文律が、試行錯誤を行う際の障害**となる。

Source: 西口尚宏、紺野登『イノベーターになる 人と組織を「革新者」にする方法』, 2018年
(赤字・傍線は事務局による)

第1回※(11/29 10:00-12:00) キックオフ

- ◆ 目的・問題意識・課題感・アプローチ共有
- ◆ OI人材・OIの場に係る従来の研究成果

第4回※(3/8 16:00-18:00) 解決策検討

- ◆ 解決策検討

第2回※(12/28 13:30-15:30) 問題点整理

- ◆ 社会での実践が進まない原因の追究

第5回(4/5 16:00-18:00) 報告書素案

- ◆ 報告書素案提示
- ◆ プロモーション戦略案提示

第3回※(2/4 15:00-17:00) 解決策検討

- ◆ 海外調査研究中間報告
- ◆ 解決策検討

第6回(4/24 10:00-12:00) コミットメント

- ◆ 報告書案、プロモーション戦略案の案取れ
- ◆ 委員のコミットメント公表

※印：グループセッション

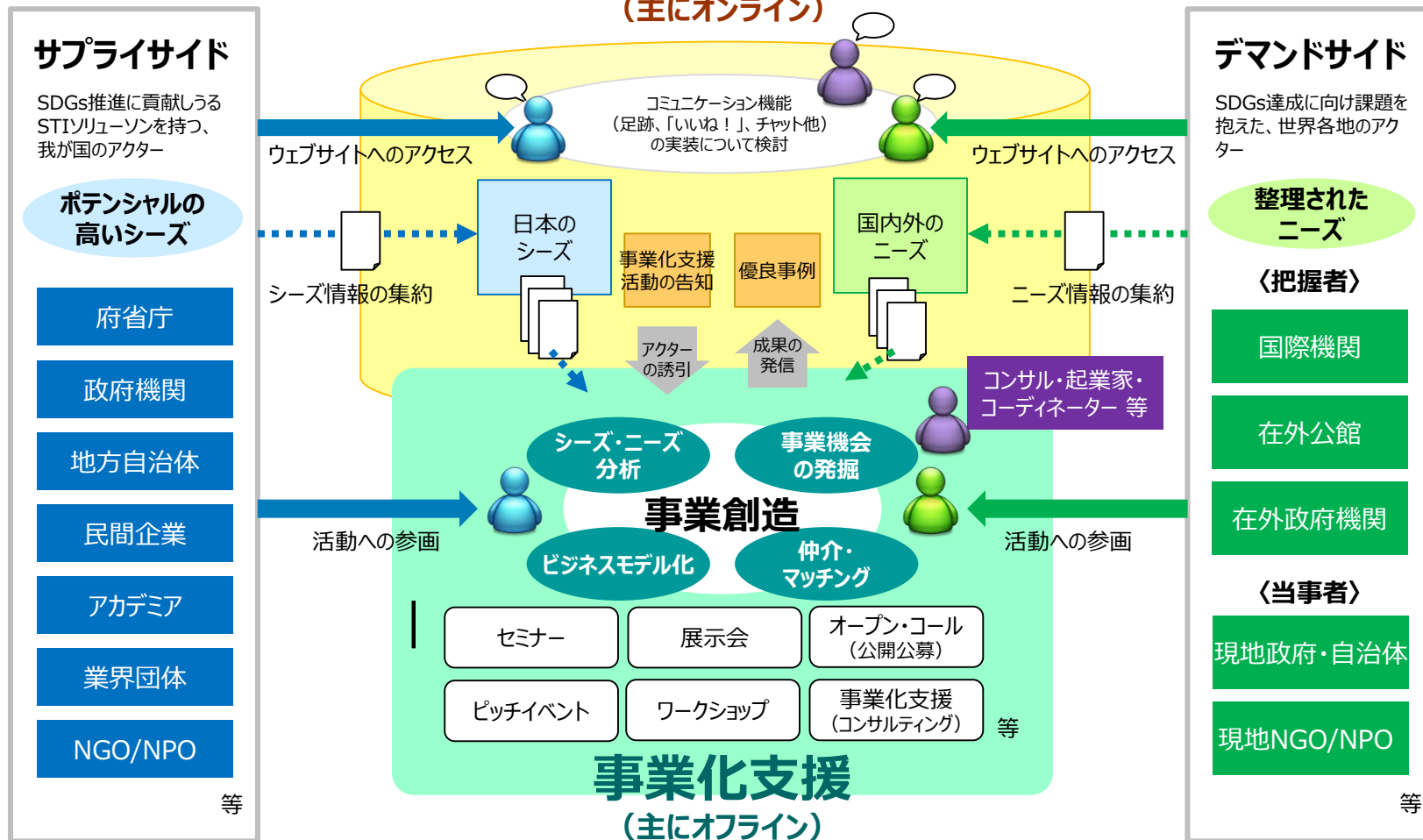
報告

運営方針

- ◆ 設置期間中を通じて、TF構成員だけでなく、その他の実務家、有識者等と意見交換やコラボレーションを続けるとともに、オブザーバーピッチも取り入れる
⇒ 随時、情報発信を行うことで、耳目を集めるオープンな会議体とする

知的財産戦略本部 検証・評価・企画委員会

情報共有・発信 (主にオンライン)



予算関連

平成31年度 当初予算（案）

OSDGsプラットフォーム構築に向けた調査等・・・0.8億円〔内閣府科技・イノベーション、知財事務局〕

課題解決に資するシーズとニーズのマッチング・事業創造を図るためのプラットフォームの在り方の調査・分析、プロトタイプ的设计・開発・試行運用等を行う。調査等にあたっては、様々なステークホルダーを巻き込み、意見交換や相互のネットワーキングを通じて、より実用に即した仕様の設計や、プラットフォームへの参画機運の醸成を行う。

国際会議での発信

G20、TICAD7、国連SDGsサミット等の国際会議において、適宜、SDGsプラットフォームについて発信を検討する。

スケジュール

2018年	～12月	・ 関係府省、関係機関、民間、アカデミアと意見交換 ・ 非公式準備会合を実施
2019年	1月～	・ 予算事業準備（仕様書作成、公募準備等）
	4月～	・ 予算事業 開始予定 ・ 国際会議等での発信を検討